

もっと安心農産物 さつまいも栽培暦(平成24年)

JAかとり小見川野菜出荷組合甘藷部会もっと安心栽培グループ

1. 土づくり

完熟堆肥を冬期に施用し、積極的に土づくりを行う。
生ぬかを施用し、未熟有機物の分解を早期に促進するようにする。

2. 施肥 ☆施肥診断に基づく施肥量の遵守

	肥料名	保証成分(%)	施肥量
基肥	さつま300	3-10-10(有機態窒素 2.29)	100kg/10a 以下
	さつま耕房	3-10-10(有機態窒素 1.5)	
	苦土重焼燐	0-35-3	60kg/10a
	マルチサポート	苦土 15%微量要素含む	60kg/10a
	キングシエル	アルカリ分 40 水溶性ホウ素 0.2	60kg/10a

3. 防除 ☆化学農薬の総使用回数は6回までとする。()内は化学成分数

月	管理作業	病害虫の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病害虫	備考 (耕種的防除の実施等)
3月下旬	種芋伏込み	アブラムシ —— 立枯病 黒斑病 —— ネコブセンチュウ ニガネムシ —— ヨトウムシ類				無病の種芋を選び、伏せ込む。サブソイラーや深耕ロータリーを使い耕盤を粉碎する。
4月上旬	施肥		テロン(1)	20 L /10 a (作付け 10 ~15 日前)	ネグサセンチュウ ネコブセンチュウ コガネムシ類(幼虫)	テロンとネマトリンエースは、どちらか一つを選択し、両方は使わない。
中旬	ベット作成		ネマトリンエース粒剤(1)	20kg/10a (植付前)	ネコブセンチュウ	ネマトリンエース粒剤は防除効果を高めるため丁寧に土壌混和する(2回ロータリー)
下旬			ダースパン粒剤(1)	9kg/10a (植付時)	コガネムシ類 ハリガネムシ類	マルチを張るときは土壌水分に十分注意する。
5月上旬	採苗定植		クロルピクリン(1)	3ml/1穴	立枯病	
中旬	↓		ベンレート水和剤(1)	500倍 (植付前)	黒斑病	
下旬	↓					
6月上旬			バスタ液剤(1)	バスタ： 200 ~ 300 ml/10a	畑地一年生雑草	
中旬						
下旬						
7月上旬			ラービン水和剤75(1)	1500倍 (収穫3日前迄)	ハスモンヨトウ ナガジロシタバ	フェロモントラップを設置し、予察結果に基づき最低限の防除を行う。
中旬						

下旬					ゼンターリ顆粒水和剤は 化学農薬のカウン 数には含まない
8月上旬		ゼンターリ顆粒水和 剤(O)	1000倍 (収穫前日迄)	ハスモンヨトウ	
中旬					
下旬					
9月上旬					
9月中旬					
下旬	収穫 開始				
10月上旬	↓				一時貯蔵を行い、 糖度の上昇をはか り、 食味を安定させ る。 その後に本貯蔵を 行い、計画出荷 をする。
中旬	1次 貯蔵				
下旬	本貯 蔵				
11月上旬	計画 出荷				
中旬	↓				
下旬	↓				